

市民文芸

短歌

令和五年度
阿南市文化祭秋季短歌誌上大会 選

中学生短歌入賞者

一位 宿題をがんばる僕に家の外ミンミン
と声援多し 福井中1年 島 蓮惺

二位 親友と花火を見つつ恋話つたえそびれて
今夏も終わる 新野中2年 折野 琴泉

三位 部活終え空全体を見わたせば星月夜に引
き込まれそう 新野中3年 森 夏

四位 ぼくの夏サッカー漬けて日に焼けてたま
に川行き泳いで焼ける 新野中1年 大谷 李斗

五位 アブラゼミ鳴く声耳になれたのにいつの
間にやら法師蟬 新野中1年 黒川 魁星

六位 今年もすいかを食べるどれにしよ私が
切ったふぞろいのすいか 新野中1年 方 琳

七位 真新しい自転車で行く初登校大雨となり
乗るか乗らぬか 福井中1年 黒川 凜

八位 青い空部活で焼いた赤い肌冷たい川で友
と見せ合う 福井中1年 野村 帝門

俳句

阿南市俳句連合会 選

鮑とる海女の真白き齒の笑顔

神原 鹿山

里山の坂下りゆく初音かな

東條 明宏

春雨や単行本を読み下す

工藤千鶴子

遠曾孫ランドセルかけスマホにて

笹田 知睦

夕桜この日のための大吟醸

横手鉄格子

先頭の先達の杖春日和

東 良子

軒下に野良猫居付く豆の花

鈴木 順子

早稲苗の育苗ハウス空つぽに

宮崎三千代

剃髪の女人は異人徒遍路

横井 知昭

登校の声高々と春深し

末広なおむ

川柳

阿南川柳会 選

握る手の弱さで知った母の古い

神野 鈴代

満点のさえずり添えた花だより

佐藤つたえ

今日これでもう何度目のあれ何処へ

高木 旬笑

No.2 1位になれと肩を押す

多田紀久代

ハイハイと二つ返事の軽い事

橋本 征介

笑顔だき大地の春を待っている

二階千代美

充電と言うことにする食べ歩き

野村 敏子

無事米寿妻より初の二重丸

野口 吾朗

一般応募

ふる里の山は昔の顔で会う

島尾美津子

年取ったなと思う若いと褒められて

武田 敏子

漢詩

阿南漢詩研究会・青松吟社 選

春日山寺に遊ぶ

山川 治

南朝古寺静如禪

南朝の古寺 静かなること禪の如く

鶯谷無人境似仙

鶯谷人無く 境 仙に似たり

山麓櫻雲紅白淡

山麓の桜雲 紅白淡く

恰看飛鳥入青天

恰も看る 飛鳥の青天に入るを

土御門上皇を憫む

松原 伸夫

上皇世亂遭蕩飄

上皇 世乱れて蕩飄に遭う

流配阿州轉變朝

流配の阿州 転変の朝

八歳風霜貽詠逝

八歳の風霜 詠を貽して逝く

苑臺就野雨蕭蕭

苑台野と就りて 雨蕭蕭たり

斷梅

池田 行子

黒雲散盡霽梅天

黒雲散じ尽くして 梅天霽れ

路上朝來日眩然

路上朝來 日眩然たり

到午人宜北窓息

午に到れば 人宜しく北窓に息い

枕肱夢裏聽新蟬

肱を枕に夢裏 新蟬を聴くべし

